

地域人材ネット

体験活動を通じた次世代支援の展開

大久保大助 (おおくぼだいすけ)

特定非営利活動法人KID's work / 九州ユースワークカレッジ
代表理事 / 校長



○ 登録者情報

所在地

北九州市

略歴

1974年北九州市生まれ。大学在学中の少年自然の家のボランティアをはじめ、北アイルランドのシュタイナーコミュニティでの活動やJICA草の根技術協力事業でのバヌアツ共和国ツツナ島村落開発事業に携わるなど、国内外での様々なボランティア活動経験を通して、子ども時代の豊かな体験活動の必要性を強く感じ、2009年KID's workを設立しました。子どもたちの「考える力」「決める力」「行動する力」を育むことを目的に、北九州市内で、キャンプや通学合宿などの体験活動を実施しています。また、ボランティアとして活動に参加してくれた若者との出会いをきっかけに、2011年より若者支援事業にも着手し、着ぐるみを活用した「ゆるきゃらプロジェクト」や「門司港セルフリノベーションプロジェクト」などプロジェクト型の活動を展開、2016年九州コースワークカレッジを設立し、社会参加のため若者に必要な力を育むための事業や啓発事業を展開しています。2015年には、文部科学省主催「日独青少年指導者セミナー」派遣団員に選ばれ「困難を抱える青少年などの支援～学校から社会への移行～」をテーマにドイツの3都市14施設を周りました。また、2014年には内閣府「子どもと家族・若者応援団表彰」内閣府特命担当大臣賞をいただきました。

著書・論文等

福岡県立社会教育総合センター ふくおか子育てパーク（令和元年12月～令和2年3月）

子育てweb講座 学童期編 コラム執筆(全4回)をしました。

コラムタイトルは、「『不便な暮らし』から得られるもの」「子どもの主体性」「『旅』のお土産」「『体験活動』～そのプロセスがもたらすもの～」(http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/kouza/lecture_b_blog/archives/category/ookubodaisuke)

毎日新聞 西部本社版 地域面コラム(2015年4月～2017年9月)

くらしQ(くらしQプラス) 子育て日和

毎月1回(計26回)コラムの執筆をしました。コラムタイトルは、「体験で得る学びを」「リスクあつての学び」

「自ら育つ環境とは」「次世代への責任とは」「体験通じ生きた言葉を」などであり、子どもの育ちについてまとめました。

(<https://mainichi.jp/ch151135325i/%E5%AD%90%E8%82%B2%E3%81%A1%E6%97%A5%E5%92%8C>)

〇 体験活動を通じた次世代支援の展開

取組の内容

【青少年健全育成・次世代育成】

□離島でのキャンプや通学合宿では「不便なくらしの体験」を、子どもたちがグループで主体的に取り組むことのできる場づくりを行っています。また、こうした事業の卒業生(中学生)に対して、キャンプスタッフとして研修を行い、役割を担ってもらうことも併せて行ったり、野外活動の事業企画立案や運営をしたりすることを通して、次世代育成を行っています。

【若者自立支援】

□ひきこもり経験のある若者を対象に「体験活動」と「心理学(交流分析)」のプログラムを少人数グループで実施することで、社会参加に必要な意欲とスキルを育む取組を行っています。また、ひきこもりという社会課題の理解を促すための啓発活動も行っています。

【人材育成の取組み】

□上記の実践を基に、社会教育・次世代育成・若者支援・防災等のテーマで講演やワークショップを行っています。(グループワーク・ファシリテーション・講座(事業)の企画・プレゼンテーション・事業の紹介等)



移動キャンプ事前研修の様子



子どもの活動講演の様子

実績

□自主事業参加者 7,081名(2009年～2018年:延べ人数) 事業費 3,286,358円(2017年)

□行政との協働事業

青少年健全育成・次世代育成事業

【北九州市環境未来都市推進支援事業】※協議体として実施

「外遊び・体験活動の理論と実践を通じた、子どもが育つ環境づくりのための広報、啓発事業」(2016)

事業費 1,191,366円 勉強会の実施:5回137名 プレイパーク:参加者240名

啓発用パンフ:80,000部(市内小学校・幼稚園・保育園に配布)

若者自立支援事業※協議体として実施

【福岡県共助社会づくり事業】「社会参加に困難を抱える若者のための実践型プログラム事業」(2012)

「チャレンジショッププロジェクト」:ひきこもり経験をもつ若者とともに模擬店の出店を通して社会スキル等を学ぶ

事業費 2,952,000円 研修会(ミーティング・PC・接客講座等)18回 実践3日 参加メンバー数16名
延295名

工夫した点や苦勞した点

・子どもの活動では、活動自体をシンプルに、かつ子どもたちが主体的に取り組むことができるようなプログラムにしました。

また、子どもと接する中高生リーダーのみなさんにこうした考えを浸透させるため、研修を行い意思統一を図りました。

・参加者募集をチラシで行っているため、チラシの「導線」を考え、手に取ってもらえる、読んでもらえる工夫をしました。

・若者支援の活動では、若者の「身辺自立」と「社会参加」をイメージしたプログラムを行っています。「やってみよう」と思っ

てもらえる入口をつくり、楽しく活動してもらい、ふりかえりをする事で日常生活へフィードバックできるよう構成しています。

ひとことPR

現代社会において、子ども・若者の「体験」の重要性は、「学力」問題に比べ、課題としての扱いは小さいと感じています。しかしながら、「体験活動」は子ども・若者のよりよい人生のための基盤であり、かつ、子ども・若者時代に生じる、対人、対社会的な課題の「予防的」な取り組みでもあるのです。

これから、変化の激しい時代、不確定な時代、答えのない(見つけにくい)時代を生きていく子ども・若者に必要なのは、「体験」を通じて、自ら「考え」「決め」「行動」することが必要だと感じています。

○ 参考

取組分野の分類

登録者の取組を12の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

1.地域資源を活用した地域経済循環	2.まちなか再生
地場産品発掘・販路開拓	中心市街地活性化
6次産業化	空地・空家・空きビル・空き店舗等対策
経営資源の引継(事業承継等)・起業支援	商店街活性化
地域中核企業等の支援	その他
その他	
3.生活機能の維持	4.環境保全・SDGs
地域医療・福祉	分散型エネルギーシステム
地域交通	地球温暖化対策
集落機能の確保	廃棄物・リサイクル対策
その他	その他
5.防災減災・危機管理	6.観光振興・交流
建築物耐震化・長寿命化	DMOとの連携
地区防災計画	インバウンド対応
BCP	民泊・農泊
避難所運営	地域おこし協力隊の推進
感染症対策	その他
○ その他 避難のためのMYルールづくり(講座)	
7.関係人口の創出・拡大	8.移住・定住促進
滞在・活動の場づくり	起業・事業承継等支援
地域おこし協力隊の推進	空地・空家対策
地域と関係人口の協働	地域おこし協力隊の推進
その他	その他
9.少子化対策、子ども・子育て支援	10.地域づくり人材の育成・教育
結婚・出産・子育て支援	○ 人材研修
働き方改革	ふるさと教育
子どもの貧困対策	地域と教育機関の連携(高校魅力化・域学連携等)
○ その他 体験活動の企画、研修、ワークショップ等	その他
11.自治体経営イノベーション	12.シティプロモーション・地域PR
財政マネジメント(公共施設管理・公会計整備)	地域ブランディング
官民連携(PPP・PFI)	メディア活用策
自治体間連携	効果の把握・評価
住民参加	その他
その他	

関連ホームページ

KID's work HP	http://www.kidswork.jp
KID's work FB	https://www.facebook.com/kidsworks/
九州ユースワークカレッジ HP	http://kyusyu-workcollege.jimdofree.com/

連絡先

メールアドレス	daisuke.kidswork〔アットマーク〕gmail.com		
---------	-----------------------------------	--	--

※メールを送る際には〔アットマーク〕を『@』に変えてください。